

## あきらめない心を学ぶ

夢を育む講演会が行われる

**津** 軽海峡単独横断に挑戦・成功した自らの経験を通じて、達成することの喜びを伝え、子どもの心の成長と夢を育むとともに、「津軽海峡」という身近な資源の世界的価値の高さを認識することを目的とした夢を育む講演会が開催されました。

講師に尾迫千恵子さんをお招きし、演題を「あきらめない心」としてこどもり学園全生徒と中里地域の小学生4～6年生に話していただきました。



## 町の教育、文化、福祉の向上に貢献

佐藤潔さんが旭日双光章

**佐** 藤さんが旭日双光章を受賞しました。11月14日(火)には、佐藤さんのご家族に伝達が行われました。

佐藤さんは昭和58年4月に地域住民の厚い支持に支えられて小泊村議会議員に当選して以来、平成19年1月15日まで永きにわたり町の教育、文化、福祉の向上に多大な貢献を果たしたことから今回表彰されました。

## 給食の野菜はどうやってできているの？

薄市小の児童が農業体験

**薄** 市小2年生と3年生の児童らが11月15日(木)に佐藤イネ子さんのハウスでチンゲン菜植えを体験しました。

児童らは大きく育つように思いを込めながら丁寧に苗を植えていきました。また、ハウスの仕組みや何種類の野菜が育てられているかなどたくさんの質問をし、農業がどのように行われているのか学びました。



## 町行政の推進に多大な貢献

白川孝憲さんが旭日雙光章

**白** 川孝憲さんが旭日雙光章を受章しました。11月17日(金)には、役場町長室で伝達式が行われました。

白川さんは平成7年から平成17年3月末まで小泊村議会議員、同年3月末から平成31年まで中泊町議会議員と長年にわたり、町行政の推進に多大な貢献を果たしたことなどから今回表彰されました。

## 皆さんおつかれさまです！

### 富野こども園・薄市こども園が慰労訪問

富野こども園と薄市こども園の園児たちが、11月23日(木)が勤労感謝の日であることから、11月20日(月)に役場を訪れて、元気いっぱいのダンスを披露しました。

園児たちからは「お仕事ご苦労さまです。いつもありがとうございます」とエールが贈られました。



## 地区住民の交流を深める

### 日曜カフェが行われる

宮野沢研修センターで11月26日(日)に「日曜カフェ」が開催され、地域住民約40名が参加しました。日曜カフェは、兼任集落支援員事業の一環として宮野沢地区で企画され、地区住民の交流を深めるため実施されたものです。この日は、地元女性部(白ゆり会)が地元食材を用いて作ったカレーライスの提供や昔なつかしい「どっぶ引き」や「大王くじ」も催され、子どもからお年寄りまで皆さん楽しんでいました。



## 寒い季節に暑くなる?!

### 駅フェス&マルシェ開催

駅フェス&マルシェ「激辛旨辛カーニバル」が11月26日(日)に津軽中里駅で開催されました。

駅ナカチャンコ食堂の麻婆ラーメンをはじめとする町内外の激辛・旨辛料理が出店されました。

また、激辛王決定戦も行われ、18歳以上の激辛自慢が激辛料理を食べるスピードを競いました。



### 令和5年度 中泊町 善行・功労者表彰式



## 町発展への功績をたたえる

### 善行・功労者表彰式

公共の福祉の増進に貢献した人や町民の模範となるべき人を表彰する町善行・功労者表彰式が11月30日(木)に総合文化センター「パルナス」で行われ、1団体と個人17人を表彰しました。

町長は「皆さんの尽力に感謝します。今後もより一層、活躍してほしい」とあいさつしました。受賞者は次のとおりです。

【個人善行表彰】 ・加藤英二さん ・古川登市さん ・伊藤定照さん

【個人功労表彰】 ・塚本悦子さん ・野上祐一さん ・小田原幸雄さん ・外崎真理子さん

・藤崎正則さん ・石川美保子さん ・新岡ふみえさん ・今信博さん ・加藤美津子さん

・尾野綾子さん ・藤崎正子さん ・菊池文子さん ・永坂眞澄さん ・小寺武繁さん

【団体功労表彰】 ・中泊町健康ダンス「べえ子ちゃん」

## 県外の方に中泊町を知ってもらうきっかけに

(株)ベルク「青森県フェア」・荻窪タウンセブン・東信水産「青森フェア」

11月18日(土)～19日(日)の2日間、千葉県浦安市のベルクフォルテ新浦安店で「青森県フェア」が開催され、町長が実際に売り場へ立ち、メバルや本マグロの販促活動を行いました。当日は、メバル51kg、本マグロ55kgが完売しました。ベルクは、埼玉県に本社があり、関東圏に132店舗ある、地域密着型のスーパーマーケットです。



11月23日(木)～26日(日)まで、荻窪タウンセブン・東信水産「青森フェア」が開催され、25日(土)には、宮下青森県知事と山崎外ヶ浜町長と一っしょに、



トップセールを行いました。また、中泊産のマダラをPRするため、タラのじゃっば汁を振る舞い、町長がマイクを持ち「今が旬のタラは鍋にするもよし、焼いてよし、万能な魚、ぜひお買い求めください」と話すと240食用意したタラのじゃっば汁が30分でなくなりました。小泊・下前漁協では、令和元年から令和4年まで豊漁が続いていました。今年は天候不良と水温が高い状況が重なり、不漁が続いています。(昨年同時期の3分の1の水揚げ) また、比較的安価で取引されているので、首都圏での消費拡大が多くなれば、価格も安定します。今後も積極的に参加していくことを検討していきます。



## みんなが豊かになる育てる漁業へ

小泊小5年生が小泊の漁業の現状を学ぶ

小泊小5年生の生徒が漁師の鈴木舞子さんから12月6日(水)に小泊の漁業の現状を学びました。漁師は漁業では厳しいルールがあり、獲る量や大きさなどが決められているのは自然や魚を守るためと話しました。

児童は、小泊の漁業の問題点を聞き、解決策を発表していました。問題点は魚を食べてくれる人が減ったことや魚の値段が安いことでした。

問題点に対して「加工品を多くすればいい。例えばハンバーグのひき肉をマグロにすれば魚が苦手な人でも食べられると思う」と発表しました。児童は、鈴木さんの話を聞いて「苦手な魚を食べられるようにしたい」「漁業の現状の対策を考えたい」「稚魚の放流はなぜ行われているのかの理由を聞いて、放流は海の豊かな環境を守っていると思った」と話しました。

## 将来に向け経験を積む

木造高校からインターンシップ

木造高校1年生の新岡萌愛さんが12月5日(火)、6日(水)の2日間、インターンシップに訪れ、今回は広報誌の編集・取材にチャレンジしてもらいました。

実際に取材や写真撮影を体験してみて「普段はできないいろいろなことが学べた。この経験を生かしていきたい」と話していました。

表紙のタイトルと22ページから23ページのイルミネーション、上の小泊小の記事は新岡さんが作成したものです。

